

社会福祉学部 <令和6年度 一般選抜 前期日程>

1

【出題意図】

高等学校で習得した基礎学力、文章理解力、語彙力、設問の趣旨にそって表現する能力を問う。

問1 (ア)固有 (イ)喚起 (ウ)平素 (エ)周到

問2 2

問3

解答例1：外来語を取り入れて用を足さざるをえないということ。(25字)

解答例2：思考の整理のために外来語を取り入れざるをえないということ。(29字)

採点ポイント

- ・「外来語をとり入れる」ことについて説明されている。
- ・用を足す、事態に対処する、思考の整理をする、など、外来語を使って何をしようとしていたかが説明されている。
- ・文章が完結しており、文字数制限が守られている。
- ・文章構成が適切であり、誤字・脱字がない。

問4

解答例：第一に、語が明確で豊かなヴィジョンを喚起させ、互いの中で一定の意味をもち説明を必要としないこと。第二に、語の意味が時と場合によって一定とは限らないなかで、特定の文脈では説明なしに使っても問題なく意味が通ること。第三に、ある語がたとえ複数の異なる意味を持っているように見えても、日常的には人々の意識にのぼることのない核となるイメージを共有していることである。(178字)

採点ポイント

- ・特色が3点に分けてあげられている。
- ・①「語が明確で豊かなヴィジョンを喚起させる」「互いの中で一定の意味をもち説明を必要としない」ことについてそれぞれ説明されている。
- ・②「語の意味が時と場合によって一定とは限らない」「特定の文脈では説明なしに使っても問題なく意味が通る」ことについてそれぞれ説明されている。
- ・③「ある語がたとえ複数の異なる意味を持っているように見えても」「語が核となるイメージ

を共有している」「ことばの核心は人々の意識には日常的にのぼってこない」ことについてそれぞれ説明されている。

- ・文章が完結しており、文字数制限が守られている。
- ・文章構成が適切であり、誤字・脱字がない。

2

【出題意図】

文章の読解力、設問に沿って適切に記述できる能力、論理的に思考する能力を問う。

【解 答】

問1 (ア)ふよう (イ)しき (ウ)こうそく (エ)こぐんふんとう (オ)きょうじゅ

問2 にわか

問3 (解答例)

仕事を辞めて時間的に余裕があったり、親の近くに住んでいたりと、偶然に他の兄弟よりも介護しやすい状況にあるため。(56字)

(採点基準)

- ・引き受けた理由として、「時間的余裕」および「物理的距離」が優位であることが、述べられている。
- ・上記の理由が偶然であることが、述べられている。
- ・字数が守られている。
- ・誤字脱字がない。

問4 (解答例)

長男が親の世話をすべきという考え方が伝統的な老親扶養の規範であり、それに対し、長男たちは、弟の介護責任を「弟というだけ」という出生順位で免責するつもりがないという心理と、同じ要介護の親を持つ兄弟でありながら弟だけが「ふつう」の男として生きられるのは許せないという同性としての対抗意識から抵抗している。(150文字)

(採点基準)

- ・伝統的な老親扶養の規範として、「長男が親の世話をすべき」とする考えが、述べられている。



4

【出題意図】

1. 図表から必要な数値を見つけ平均値や中央値を算出する、また増減を割合（％）から実際の数を算出するといった基本的な算術能力を問う。
2. 割合についての理解を問い、また問題内容に即して文章化する能力を問う。

【解答例】

問1 108.25 人

計算式： $(100+80+120+94+130+90+150+170+115+90+80+80) \div 12=108.25$

問2 97 人

計算式： $(94+100) \div 2 =97$

問3 100 人

計算式： $115 \div x=1.15$

$$x =100$$

問4 （解答例）

増減率などの割合は大きさや数量を相対的に評価する際に変化したところが分かる方法であるが、2月と8月を比較した場合のように、増減率では2月の方が大きいですが、実際の利用者数は8月の方が大きいなど、割合のみでは実際の数字が分からないため、比較する基準によって恣意的にデータが強調される問題がある。（144文字）